

平成 20 年度学生授業評価報告書

名寄市立大学・短期大学部 F D 委員会

はじめに

名寄市立大学・短期大学部

平成 20 年度 F D 委員会委員長 塚本智宏

平成 18 年度に開学した名寄市立大学保健福祉学部も 3 年目に入り、まずは最初の 4 学年がそろそろ完成年度を迎えている。専門職者として求められる知識・技術・教養とそれを活用できる十分な力を身につけて 4 年制大学の卒業生として巣立つことを応援したい。

短期大学部児童学科は平成 20 年度、名寄市立大学短期大学部から転換して新たな一期生を迎え入れた。今後の発展のために、これまでの伝統を生かし更に質の高い教育を提供することが求められています。

質の高い教育を提供するためには教員の研究・教育の力量の耐えざる更新が必要であり、また真摯に学生の声に耳を傾けることのできる器量と何よりも日常の授業実践力の向上が求められます。

本報告書に収めた授業評価アンケートのデータ・学生の意見の回収はいうまでもなくこういった教員個々の教育力量の向上のためのみならず、大学全体の教育力量を向上させるためのものです。現時点において、これを最大限活かす努力と工夫が必要です。

報告書の作成が大幅に遅れて迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。今後完成年度においては、4 年間の総括をもとに、さらなる授業改善を模索したいと考えております。本報告書の内容に関しぜひとも意見をお寄せいただければと考えております。

平成 22 年 3 月

目 次

| | |
|--------------------------------------|----|
| I. 2008 年度の学生による授業評価アンケートの実施と意義 | 2 |
| II. アンケート調査項目に関する授業評価の結果について | 4 |
| ① 全体（学部・短期大学部）集計 | 5 |
| ② 保健福祉学部 | 6 |
| ③ 短期大学部 | 7 |
| ④ 各学科前期 | 8 |
| ⑤ 各学科後期 | 9 |
| ⑥ 共通科目（連携教育・教養教育） | 11 |
| III. 自由記述欄での学生の疑問や意見について（学部・短期大学部共通） | 12 |
| ①前期学生意見の要約 | 12 |
| ②後期学生意見の抜粋 | 14 |
| ③各教員の現状認識と次年度に向けた対応 | 17 |
| IV. 資料 | |
| 授業評価アンケート | 19 |
| 授業評価アンケート実施手順 | 21 |

I. 2008 年度の学生による授業評価アンケートの実施と意義

2008 年度の学生による授業評価アンケートを前期と後期それぞれ、学部全学科 1-3 学年の全学生ならびに短期大学部の学生 1-2 年の全学生を対象に行った。

調査内容は、おおよそ 2006-2007 年度において実施した内容で行った。ただし、前年度後期において行った記名式方式を改め再び無記名式として実施した。本来記名によるアンケートを理想とするがなおこれは尚早として、無記名式を原則許容した（可能であれば記名を求めた 資料 1・2 参照）。

調査項目は以下の 10 項目であり、これに対する評価を 4 段階

（4「そう思う」、3「ややそう思う」、2「ややそう思わない」、1「そう思わない」）

として回答を求めている。

- (1) 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。
- (2) 授業内容は理解できるものであった。
- (3) 教員の話し方は聞き取りやすかった。
- (4) 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。
- (5) 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。
- (6) 授業の進行速度は適切であった。
- (7) 内容の理解を確認するための作業（例：課題、小テスト等）があった。
- (8) 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。
- (9) あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。
- (10) この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。

授業改善に向けて学生の率直で多様な声を集め、その声を真摯に受けとめるための方向が、大学づくりには不可欠である。学生と教員との信頼関係と相互批判のうえに成り立つ大学教育が求められている。

前期後期に実施されるアンケートの結果は、何よりも担当者の授業改善に向けられたものであり、その結果を個々の担当教員に即座に検討していただくために返還している。FD委員会としては、各教員には、提示されたデータや学生の改善要求の声には真摯に耳を傾けそれに応えることを求めている（各教員には次年度どのような改善を図るのか、アンケートに答える対応を求めている、Ⅲの③参照）。

とくに自由記述欄（「授業の内容や方法の改善に向けて、あなたの感想や意見を自由に書いてください」）については、学生の生の言葉が現れやすく、注目している。かりに同じ繰り返しの要求が現れていれば、明らかに改善の努力が不足しているといえる。肯定的な評価については、広く共有することを目指していきたい（Ⅲの①、②）。

2006年度のアンケートの開始より年を追うたびに、プリミティブな改善要求にはできるだけ教員は応えてきており、全体としてはそういった要求は減少してきていると考えられるが、なお黒板の字や声のききとりにくさ、プリントやスライドの技術など、授業の初歩的基礎的なレベルでの指摘も消えていない（Ⅲの①）。

他方で、今年度の学生の肯定的な評価や改善要求のなかに見られるのは、明確に授業の目標や内容、計画性、理論水準といったレベルでの授業評価への言及であり、その傾向が強くなっている。学生の自己教育の意識や研究教育力量が高まってきたことの結果でもあるが、学生の声のなかに、明確な目標や十分な計画性が感じられないなどといった、この高まりに対応していない・できていないと言う主旨の評価には大学の教員としての十分な

反省が必要である。こういった背景には教員の側に十分な教育研究の時間が確保されていないという問題もあるように思われるが、こういった問題の解決も不可欠であるが、当然これを理由に改善を保留するわけにはいかないだろう（Ⅲの②参照）。

なお、教員に変換される集計データに関して、教員による自己評価のための視点を増やすために、全体集計評価との対比のみでなく、さらに、学科内順位や最高評価との対比などを可能にしてほしいとの要求があり、その方向でのデータ集計の変更を次年度検討することが予定されている。

上記のような授業アンケートの担当者へのフィードバックという方法による授業改善がもっとも効果的なアンケート利用方法と考えるが、他方で、このアンケートを組織的に活用する方法を探究すべきだという課題意識も現れている。

もちろん、その場合の組織的活用は、本学の場合でいえば、学部の三つの専門学科の専門教育科目と連携教育科目ならびに教養教育科目、さらに、短期大学部の専門・一般教育といった教科目はなど多様であり、一様一律な授業方法の改善はありえない。さしあたり、もっとも効果的と考えられる範囲で、例えば学科内での隣接の教科目群ごとにもっとも相応しい授業のあり方を追究していく努力が必要である。2008年度においてはこの点の議論を開始したが、全体の動きをその方向において創り出すにはいたらなかった。今後少なくとも学科レベルで、授業改善の方向を探る努力が必要である。

Ⅱ. アンケート調査項目に関する授業評価の結果について

本報告書において、先に示した10項目について以下に提示する集計データは、学部と短期大学部共通の全体集計値①、学部集計値②、短期大学部集計値③の三種の基本データである。なおこれらのデータを判断する相対的な材料が不足しており(今年度、基礎的なデータ集計に関して、昨年度と異なる方法で行ったため、前年度との比較、また、学年毎の比較が困難となっている)、詳細なコメントはできないが、学部と短期大学部を分けるなら、前期・後期のデータを示した②③のデータをみると、平均値に明らかなように、1. 全体的に短期大学部の評価数値が高いことについては今年度以前から示されてきたが、2. 前期から後期へ向けて科目が変化する中で、また様々な評価項目があるなかでそれぞれの評価数値が必ずしも高まらないのが通常であるが、全項目についてその数値が高まっており、学生のなかで高い安定した授業評価があったものと思われる。

学部については、試みとして、三学科の学科別のデータ④⑤ならびに学部共通科目⑥を提示しておく。今後のそれぞれの学科のなかでの重点課題などを明らかにしていく際の基礎的なデータとして蓄積されていくことを期待したい。

① 2008 年前・後期全体（学部・短期大学部）集計

前期 履修者数 6,494 回答者数 5,897

後期 履修者数 6,205 回答者数 5,668

平均 回答率 (%)

| | | | | | | |
|--------------------------------------|----|------|------|------|------|-----|
| 1.授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | 前期 | 3.43 | 53.6 | 36.9 | 8.2 | 1.3 |
| | 後期 | 3.45 | 54.3 | 37.6 | 6.7 | 1.3 |
| 2.授業内容は理解できるものであった。 | 前期 | 3.34 | 50.2 | 36.8 | 10.2 | 2.8 |
| | 後期 | 3.34 | 49.7 | 37.6 | 10.0 | 2.6 |
| 3.教員の話し方は聞き取りやすかった。 | 前期 | 3.35 | 53.9 | 30.8 | 12.0 | 3.4 |
| | 後期 | 3.36 | 51.5 | 35.4 | 11.0 | 2.1 |
| 4.黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | 前期 | 3.42 | 55.4 | 33.2 | 9.5 | 1.9 |
| | 後期 | 3.40 | 53.3 | 35.8 | 9.1 | 1.9 |
| 5.教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 前期 | 3.48 | 58.3 | 32.8 | 7.1 | 1.8 |
| | 後期 | 3.45 | 55.4 | 35.5 | 7.4 | 1.7 |
| 6.授業の進行速度は適切であった。 | 前期 | 3.42 | 54.3 | 35.5 | 8.1 | 2.0 |
| | 後期 | 3.41 | 52.6 | 37.5 | 7.8 | 2.1 |
| 7.授業内容の理解を確認するための作業（例：課題、小テスト等）があった。 | 前期 | 3.26 | 48.9 | 32.4 | 14.1 | 4.6 |
| | 後期 | 3.29 | 49.4 | 34.0 | 12.4 | 4.2 |
| 8.教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | 前期 | 3.23 | 44.6 | 37.3 | 15.0 | 3.1 |
| | 後期 | 3.31 | 48.3 | 37.3 | 11.4 | 3.0 |
| 9.あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | 前期 | 3.16 | 34.1 | 49.7 | 13.8 | 2.4 |
| | 後期 | 3.19 | 36.7 | 47.8 | 12.9 | 2.6 |
| 10.この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | 前期 | 3.53 | 62.9 | 28.6 | 6.5 | 1.9 |
| | 後期 | 3.53 | 62.9 | 29.5 | 5.4 | 2.2 |

② 2008 年前・後期 保健福祉学部

前記 履修者数 5,220 回答者数 4,674

後期 履修者数 4,619 回答者数 4,194

| 問 | 設問文 | 平均 | 回答率 (%) | | | |
|-----|------------------------------------|------|---------|------|------|-----|
| | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1. | 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | 3.40 | 52.1 | 37.4 | 8.9 | 1.6 |
| | | 3.39 | 50.5 | 40.0 | 7.8 | 1.7 |
| 2. | 授業内容は理解できるものであった。 | 3.30 | 47.5 | 38.4 | 10.8 | 3.3 |
| | | 3.25 | 43.8 | 40.7 | 12.2 | 3.3 |
| 3. | 教員の話し方は聞き取りやすかった。 | 3.32 | 52.2 | 31.0 | 12.9 | 3.9 |
| | | 3.29 | 46.8 | 37.7 | 12.8 | 2.7 |
| 4. | 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | 3.38 | 53.1 | 34.4 | 10.3 | 2.2 |
| | | 3.34 | 48.8 | 38.4 | 10.7 | 2.1 |
| 5. | 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 3.45 | 56.4 | 33.9 | 7.7 | 2.1 |
| | | 3.38 | 51.1 | 38.1 | 8.8 | 2.0 |
| 6. | 授業の進行速度は適切であった。 | 3.38 | 52.0 | 36.8 | 8.8 | 2.4 |
| | | 3.34 | 48.1 | 40.3 | 9.1 | 2.5 |
| 7. | 授業内容の理解を確認するための作業（例：課題、小テスト等）があった。 | 3.23 | 47.9 | 32.2 | 15.0 | 4.9 |
| | | 3.25 | 47.5 | 34.6 | 13.1 | 4.9 |
| 8. | 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | 3.18 | 41.1 | 38.9 | 16.4 | 3.6 |
| | | 3.22 | 43.1 | 39.8 | 13.6 | 3.6 |
| 9. | あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | 3.10 | 30.0 | 52.5 | 14.7 | 2.8 |
| | | 3.10 | 31.9 | 49.1 | 15.7 | 3.2 |
| 10. | この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | 3.49 | 60.4 | 30.1 | 7.3 | 2.3 |
| | | 3.46 | 57.8 | 32.8 | 6.8 | 2.6 |

③ 2008 年前・後期 短期大学部

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 履修者数 | 1,274 | 回答者数 | 1,223 |
| 履修者数 | 1,586 | 回答者数 | 1,474 |

| 問 | 設問文 | 平均 | 回答率 (%) | | | |
|-----|------------------------------------|------|---------|------|------|-----|
| | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1. | 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | 3.54 | 59.5 | 34.8 | 5.3 | 0.3 |
| | | 3.60 | 64.9 | 30.9 | 3.9 | 0.3 |
| 2. | 授業内容は理解できるものであった。 | 3.50 | 60.3 | 30.5 | 7.9 | 1.3 |
| | | 3.61 | 66.5 | 29.0 | 3.8 | 0.7 |
| 3. | 教員の話し方は聞き取りやすかった。 | 3.48 | 60.2 | 29.8 | 8.4 | 1.6 |
| | | 3.58 | 64.6 | 29.0 | 5.8 | 0.6 |
| 4. | 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | 3.56 | 64.1 | 28.4 | 6.7 | 0.8 |
| | | 3.59 | 66.0 | 28.1 | 4.6 | 1.3 |
| 5. | 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 3.59 | 65.8 | 28.6 | 5.0 | 0.7 |
| | | 3.63 | 67.6 | 28.3 | 3.3 | 0.8 |
| 6. | 授業の進行速度は適切であった。 | 3.56 | 63.0 | 30.9 | 5.6 | 0.6 |
| | | 3.59 | 65.4 | 29.6 | 4.1 | 0.9 |
| 7. | 授業内容の理解を確認するための作業（例：課題、小テスト等）があった。 | 3.35 | 52.6 | 33.4 | 10.7 | 3.3 |
| | | 3.40 | 54.6 | 32.6 | 10.7 | 2.2 |
| 8. | 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | 3.46 | 57.9 | 31.2 | 9.6 | 1.2 |
| | | 3.56 | 63.2 | 30.2 | 5.3 | 1.2 |
| 9. | あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | 3.38 | 49.7 | 39.0 | 10.5 | 0.8 |
| | | 3.44 | 50.3 | 44.1 | 5.0 | 0.6 |
| 10. | この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | 3.68 | 72.7 | 23.2 | 3.6 | 0.6 |
| | | 3.74 | 77.5 | 19.8 | 1.6 | 1.0 |

④ 2008 年前期 授業評価アンケート 学部のみ学科別

| | | | | |
|----|------|-------|------|-------|
| 栄養 | 履修者数 | 1,079 | 回答者数 | 1,007 |
| 看護 | 履修者数 | 801 | 回答者数 | 738 |
| 社福 | 履修者数 | 1,258 | 回答者数 | 1,110 |

| 問 | 設問文 | 平均 回答数 (人) / 回答率 (%) | | | | |
|---|------------------------------------|----------------------|------|------|------|-----|
| | | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 1 | 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.31 | 47.7 | 38.1 | 11.9 | 2.3 |
| | 看護 | 3.45 | 57.2 | 32.4 | 8.9 | 1.5 |
| | 社福 | 3.42 | 55.9 | 33.0 | 8.5 | 2.6 |
| 2 | 授業内容は理解できるものであった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.23 | 41.9 | 42.2 | 12.6 | 3.3 |
| | 看護 | 3.28 | 50.5 | 31.7 | 13.3 | 4.5 |
| | 社福 | 3.33 | 52.8 | 32.5 | 9.6 | 5.2 |
| 3 | 教員の話し方は聞き取りやすかった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.22 | 47.6 | 32.3 | 15.0 | 5.1 |
| | 看護 | 3.28 | 55.9 | 22.0 | 16.3 | 5.8 |
| | 社福 | 3.37 | 56.2 | 29.4 | 10.0 | 4.4 |
| 4 | 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.33 | 49.0 | 37.2 | 11.9 | 1.9 |
| | 看護 | 3.37 | 55.1 | 30.0 | 11.5 | 3.4 |
| | 社福 | 3.38 | 54.3 | 32.3 | 10.1 | 3.3 |
| 5 | 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.41 | 52.7 | 36.8 | 8.6 | 1.8 |
| | 看護 | 3.42 | 58.7 | 28.6 | 8.9 | 3.8 |
| | 社福 | 3.42 | 56.2 | 32.8 | 7.5 | 3.5 |
| 6 | 授業の進行速度は適切であった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.27 | 42.7 | 44.2 | 10.8 | 2.3 |
| | 看護 | 3.32 | 49.9 | 36.0 | 10.4 | 3.7 |
| | 社福 | 3.40 | 57.0 | 30.4 | 8.2 | 4.4 |
| 7 | 授業内容の理解を確認するための作業（例：課題、小テスト等）があった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.32 | 53.6 | 29.0 | 13.3 | 4.1 |
| | 看護 | 3.18 | 44.9 | 32.6 | 17.6 | 4.9 |
| | 社福 | 3.40 | 57.0 | 30.4 | 8.2 | 4.4 |

| | | | | | | |
|----|----------------------------------|------|------|------|------|-----|
| 8 | 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.07 | 36.1 | 39.9 | 19.4 | 4.7 |
| | 看護 | 3.19 | 43.6 | 36.7 | 14.9 | 4.7 |
| | 社福 | 3.23 | 45.8 | 36.7 | 12.6 | 4.9 |
| 9 | あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.07 | 28.0 | 53.7 | 15.7 | 2.6 |
| | 看護 | 3.04 | 28.7 | 50.5 | 17.2 | 3.5 |
| | 社福 | 3.13 | 35.9 | 46.5 | 12.6 | 5.0 |
| 10 | この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.50 | 59.4 | 32.2 | 6.8 | 1.6 |
| | 看護 | 3.53 | 65.6 | 24.7 | 6.6 | 3.1 |
| | 社福 | 3.50 | 64.7 | 24.7 | 6.4 | 4.1 |

⑤ 2008年後期 授業評価アンケート 学部のみ学科別

| | | | | |
|----|------|-------|------|-------|
| 栄養 | 履修者数 | 795 | 回答者数 | 753 |
| 看護 | 履修者数 | 1,283 | 回答者数 | 1,175 |
| 社福 | 履修者数 | 997 | 回答者数 | 881 |

| 問 | 設問文 | 平均 | 回答数（人）／回答率（％） | | | |
|---|-----------------------------|------|---------------|------|------|------|
| | | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1 | 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.35 | 48.8 | 39.4 | 10.0 | 1.9 |
| | 看護 | 3.38 | 48.3 | 43.2 | 7.2 | 1.4 |
| | 社福 | 3.41 | 56.5 | 31.1 | 8.7 | 3.6 |
| 2 | 授業内容は理解できるものであった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.19 | 38.4 | 45.3 | 12.8 | 3.5 |
| | 看護 | 3.19 | 40.4 | 41.9 | 13.8 | 3.9 |
| | 社福 | 3.30 | 52.1 | 30.5 | 12.5 | 4.9 |
| 3 | 教員の話し方は聞き取りやすかった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.20 | 40.6 | 41.4 | 15.0 | 2.93 |
| | 看護 | 3.33 | 48.5 | 37.5 | 11.9 | 2.0 |
| | 社福 | 3.34 | 53.9 | 31.0 | 10.7 | 4.4 |

| | | | | | | |
|----|------------------------------------|------|------|------|------|------|
| 4 | 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.32 | 46.2 | 41.7 | 10.4 | 1.73 |
| | 看護 | 3.24 | 44.5 | 38.1 | 14.7 | 2.7 |
| | 社福 | 3.40 | 56.0 | 30.5 | 10.6 | 3.0 |
| 5 | 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.36 | 48.9 | 39.9 | 9.3 | 1.9 |
| | 看護 | 3.39 | 51.7 | 37.4 | 8.9 | 2.0 |
| | 社福 | 3.38 | 55.6 | 31.0 | 9.6 | 3.7 |
| 6 | 授業の進行速度は適切であった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.35 | 47.1 | 42.6 | 8.8 | 1.5 |
| | 看護 | 3.24 | 41.0 | 44.6 | 11.9 | 2.6 |
| | 社福 | 3.29 | 52.2 | 30.8 | 10.7 | 6.3 |
| 7 | 授業内容の理解を確認するための作業（例：課題、小テスト等）があった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.31 | 48.5 | 37.2 | 11.1 | 3.3 |
| | 看護 | 3.26 | 47.3 | 35.7 | 12.4 | 4.7 |
| | 社福 | 3.16 | 45.3 | 32.2 | 16.0 | 6.5 |
| 8 | 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.17 | 38.9 | 42.7 | 15.5 | 2.9 |
| | 看護 | 3.18 | 40.7 | 39.7 | 16.1 | 3.5 |
| | 社福 | 3.24 | 49.4 | 32.2 | 11.7 | 6.7 |
| 9 | あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.13 | 31.6 | 52.2 | 13.8 | 2.4 |
| | 看護 | 3.01 | 25.7 | 52.5 | 18.8 | 3.0 |
| | 社福 | 3.12 | 38.7 | 40.5 | 14.9 | 5.9 |
| 10 | この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | | | | | |
| | 栄養 | 3.46 | 56.6 | 34.5 | 6.9 | 2.03 |
| | 看護 | 3.46 | 57.8 | 33.2 | 6.7 | 2.3 |
| | 社福 | 3.46 | 63.9 | 23.9 | 7.2 | 5.1 |

⑥ 2008 年前期・後期 授業評価アンケート 共通科目 (連携教育・教養教育)

| | | 前期 | 履修者数 | 2,082 | 回答者数 | 1,819 | |
|----|---------------------------------------|----|-------------------|-------|------|-------|-----|
| | | 後期 | 履修者数 | 1,544 | 回答者数 | 1,385 | |
| 問 | 設問文 | 平均 | 回答数 (人) / 回答率 (%) | | | | |
| | | | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 1 | 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | 前期 | 3.41 | 50.1 | 41.7 | 7.5 | 0.7 |
| | | 後期 | 3.42 | 49.6 | 43.4 | 6.4 | 0.6 |
| 2 | 授業内容は理解できるものであった。 | 前期 | 3.34 | 46.2 | 42.7 | 9.6 | 1.5 |
| | | 後期 | 3.30 | 44.2 | 43.5 | 10.5 | 1.8 |
| 3 | 教員の話し方は聞き取りやすかった。 | 前期 | 3.35 | 50.9 | 35.0 | 12.1 | 2.0 |
| | | 後期 | 3.27 | 44.3 | 39.9 | 13.8 | 2.0 |
| 4 | 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | 前期 | 3.43 | 53.9 | 36.1 | 8.9 | 1.2 |
| | | 後期 | 3.39 | 49.3 | 41.9 | 7.7 | 1.1 |
| 5 | 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 前期 | 3.49 | 57.5 | 35.1 | 6.8 | 0.6 |
| | | 後期 | 3.39 | 48.9 | 42.2 | 7.9 | 1.0 |
| 6 | 授業の進行速度は適切であった。 | 前期 | 3.46 | 55.0 | 36.8 | 7.4 | 0.8 |
| | | 後期 | 3.45 | 52.0 | 41.4 | 5.9 | 0.7 |
| 7 | 授業内容の理解を確認するための作業 (例: 課題、小テスト等) があった。 | 前期 | 3.17 | 42.7 | 35.8 | 16.7 | 4.7 |
| | | 後期 | 3.26 | 48.6 | 33.7 | 12.9 | 4.8 |
| 8 | 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | 前期 | 3.19 | 40.0 | 40.6 | 17.6 | 1.8 |
| | | 後期 | 3.28 | 43.3 | 43.2 | 11.6 | 2.0 |
| 9 | あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | 前期 | 3.11 | 28.0 | 56.4 | 14.3 | 1.3 |
| | | 後期 | 3.14 | 33.0 | 50.1 | 14.7 | 2.2 |
| 10 | この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | 前期 | 3.45 | 56.1 | 34.4 | 8.3 | 1.2 |
| | | 後期 | 3.45 | 54.5 | 37.4 | 6.4 | 1.7 |

Ⅲ.自由記述欄での学生の疑問や意見について（学部・短期大学部共通）

以下は前期・後期、それぞれの時期の授業評価アンケートに記載された自由記述欄の学生による評価をある程度整理・要約して全教員向けに提示したものである。

① 2008 年前期授業評価アンケート学生意見要約

1.肯定的評価

<講義に対する姿勢・動機づけ、講義の内容、雰囲気>

- ・熱意・迫力ある講義感情にまで訴える講義
- ・厳しいけれど、先生の言葉一語一句重みを感じた、絶対将来役立つはず。
- ・知識について自分で考える時間を作ってくれたのでモチベーションがあがった
- ・楽しい わかりやすい
- ・体験談がおもしろい。
- ・関心をそそる講義
- ・考えさせられる講義
- ・考え方が変わった。

<学生とのやりとりを>

- ・毎回学生の質問にいていねいに答えてくれる
- ・ディスカッションが楽しい
- ・先生の講義は参加型でとても楽しい授業
- ・コンセンサスのある授業楽しかった
- ・講義内容に希望を入れてやってくれた。
- ・毎回授業を行う上での目標やまとめの説明も詳しくしてくれたので頭にすんなり入りやすかったです！！

<資料の工夫>

- ・ポイントがよくわかるレジュメ
- ・プリントを見て復習もできるので、とても勉強しがいがあった。

<授業改善への日常的な努力>

- ・途中でアンケートをとり、授業改善されて良かった。
- ・授業の質を良くしようという気持ちが伝わってきた。

2.改善してほしいこと

<板書・ホワイトボード>

- ・黒板が見づらいです。
- ・板書見づらい。

- ・字が読めない（汚い）。
- ・ホワイトボード字が見えない

<スライド>

- ・スライドの切り替え早すぎ　メモとれない
- ・ポイントがわからない
- ・スライドの字数が多すぎ
- ・レジュメ　スライドとの内容不統一
- ・スライドの資料がほしい

<聴かせる、聞かせる>

- ・言葉が聞き取れない。
- ・マイクをつけていても声を拾ってないときもある。聞こえない
- ・後ろまで声が届かない、マイクをつかってください。
- ・もっとゆっくりはっきりと説明を

<授業プロセス>

- ・授業が平板
- ・やりとりが一部の学生、全体とのやりとりを
- ・教科書だけの授業では眠くなる

<講義の目標・内容・水準>

- ・授業目標がはっきりしていない
- ・授業内容がわからない
- ・何をいっているのかわからない。
- ・講義内容をもっと深いものにしてほしい
- ・実体験ばかりでなく本当の基礎知識を。
- ・先生が忙しいのはわかるが・・・これは学生には関係ない。

<教材や資料について>

- ・テキスト・教科書と講義内容
- ・教科書批判している、なぜ教科書を買わせるのか

<学生に対する姿勢>

- ・授業後、質問に誠実に答えてくれない
- ・注意する場合には生徒を尊重した態度で

<講義と国試の関係>

- ・国試、過去問をもっと。
- ・国試の科目なのにその内容がない

<試験・評価方法・その説明・結果>

- ・評価方法についての事前の明確な説明

- ・レポートや試験に関わる予告を早めに
- ・レポートへの評価の結果について正答なのかどうか回答を。
- ・レポートの量多すぎ
- ・レポート毎回なのにさらに試験は必要か

<授業時間・休講>

- ・授業の終了時間を守ること
- ・教員の都合による予定の変更 きちんと釈明

② 2008年後期授業評価アンケート学生意見抜粋 肯定的評価と改善要求

<授業の目標・授業内容全般に関わって>

- ・自分の体験談を話す先生が多い〇〇学科教員の中で、しっかりと理論を話してくれた。
- ・どのように学ぶべきか、この授業が何を目的としているのか、このような事項に関する説明が明確にされていたので、自分の頭の中で内容をしっかりと整理しつつ学ぶことができた。
- ・先生の現場での話をきけてとてもためになったし、色々考えさせられた。人のことを考えられる人になれるようにがんばりたいと思います。
- ・この講義を通して、「看護とは何なのか」や、患者さん中心の看護がすごく大切だということがわかりました。将来知っておくべき大切なことがたくさん身につけてよかったです。私にとって、とても難しく復習などをしないとついていけない内容でしたが、先生が分かるまでしっかりと教えてくれたので、とても助かりました。覚えの悪い学生でしたが、しっかりと教えてくださり、本当にありがとうございました。
- ・あくまでも技術だけではなく、今後、この技術からどう私たちが考えていかなければならないか学ばせてもらった。
- ・社会福祉の実践は、「生活」という視点が否応なく入りこんでくる。それゆえに、この講義は、今までの学びとは異なる視点から生活に触れることができたという意味で大きかったように思う。「生活」を捉えるまなざしがますます深まった。
- ・内容が濃く、しかも多彩であったため、社会福祉のさまざまな側面について深く、体系的に学ぶよい機会となった。私は今までもそれなりに読書はしていたが、この講義を通して文献検索の視野も大きく広がった。古典の文学に触れるという視野も見つけられたからである。半年間ありがとうございました。
- ・この講義で私は先生の自論を聞きたい訳ではありません。福祉が、保健医療とどう関わるかの一般論を講義で話して下さい。
- ・授業内容に関しては、毎回誰かの論文を読んで、先生がそれに解説を加えるだけでしたよね。資料を多用しすぎて、わかったようなそうでないようなという感じが残ります。

大学の講義とはそんなものと言ってしまうかもしれませんが、単々としすぎていたと思います。

- ・授業の具体的な目標や内容についての明瞭な説明がなく、この授業で、どのような力を身に付けて欲しいのかが分からなかった。また、教員自身が講義回数を把握していなかったり等、学生が不信感を抱く点が多かったので、教員側の、講義に対する意識をきちんと持ってもらいたいと感じた。
- ・全体的に手探りなカリキュラムだったと思う。「いつ何をを行い、それをどのように深め何を学ぶのか？」を学生の意見を良く聴きながら、しっかりとカリキュラムを組み立てた上で講義を進めるべき。本当に「振り回された」という感じがする。

<フィードバック・双方向授業・授業参加>

- ・授業のフィードバックがとても理解につながると思います。自分がふと疑問に思ったことを気軽に質問することができますし、質問したくてもあきらめたことを、他の人が質問している場合や、自分では気づくことのできなかつた視点を知ることができると思います。一気にたくさんのことを行ったので、まだ頭の中が整理されていませんが、これから整理して臨床でも使っていきたいです。

- ・授業が一方的かなと思います。
- ・〇〇についての考えをもっとみんなに聞いて、学生同士で意見交換などの時間を設けたら、いいのではないのでしょうか。
- ・倫理的な問題なので、生徒が受け身な講義ではだめだと思います。
- ・意見や考えを否定されてばかりで、どんどんやる気がなくなりました。
- ・自分と同じ意見じゃないと認めてくれない。違う意見に対するフォローが全くない。言われた意見に対して否定しないと言いつつ、否定した行動をしている。
- ・先生の言った通りにしか作業できなくてつまらなかった。

<授業の計画性・授業内容の吟味>

- ・とても丁寧な説明で、毎回の授業がよくわかった。
- ・授業進行も適切であった。授業に計画性があり、安心して話を聞くことができた。
- ・講義ではなく講演会のような 15 コマでした。現場での話か、時事に関する話はとても大切ではありますが、その話がこの科目全体の中のどこに当たるのかを、非常につかみづらかったという感想です。他の参考書を購入して勉強をしましたが、シラバスの「講義のねらい」はこの講義ではなく、その勉強のおかげで達成できたと言っても過言ではないような気がします。もっとテキストに絡めた内容にすべきでは？
- ・間違えて教えられないから難しいことをそのまま教えるという方針だったようですが、

難しすぎてあまり理解できませんでした。この学問のプロを目指しているわけではないので、もう少しわかりやすく説明してくれると良かったです。

<試験・レポート・評価について>

- ・もっと保健から見る医療、医療から見る福祉、福祉から見る保健っていう相互的な講義だと思ってた。先生が4人いたため、テストが4種類あるのは分かるが、そこに正当性をあまり感じられなかった。
- ・授業であまり取り扱っていないレポート内容についても疑問がある。
- ・授業の内容とテスト内容があまりに、リンクしていないと思います。もっとポイントをしばった講義にし、レジュメをきちんとまとめて作っていただきたいです。
- ・評価方法については、もっと早く連絡してほしい。(方法だけでなく課題内容も。授業の目標・内容・評価方法は、できれば最初に言うておいてほしかった。学生の発言をもっと尊重した講義になれば良かった様な気がします。
- ・テスト勉強をはじめから、この概説科目がなんなのかわかってきたので、もう少し早く、わかるように小テストなどがあつたらよかった。
- ・「正当な理由以外で発表者が欠席したらその発表はやらせない」など事前にルールをつくっておいた方が良いかもしれない。さぼった人の分スケジュールが押していったため、評価に影響しないのもおかしい。
- ・レポートで何を重要視しているのかを明確にしてほしい。
- ・レポート提出の直前に、レポートの説明があると大変なので、最初に説明して欲しかった。
- ・また、30分以上遅れてくる学生や、講義が終わる直前に来た学生が、講義の始めからいた学生と同じく出席になるのはおかしいと思います。

<週カリキュラムの組み方・他の科目との関連>

- ・カリキュラム、キツイです。
- ・よく「〇〇の講義でこの事について習っていますよね」という言い方をされていましたが、他の講義は必ずしも私たちの学科の目線からの講義ではありません。だから、先生によっては、さらっと触れる程度だったりするため、私たちが専門の目線からしっかりと理解していると思わない方が良いと思います。
- ・カリキュラムの組み方が大変です。死にそうです。ありえないです。つめこみすぎです。いくら、授業時間が足りないといえど、もう少し明確な目標と授業を行って欲しかった。

<授業方法の工夫>

- ・プリントの進め方がわかりやすくてよかった。
- ・学習のポイントについてプリントなど最後に配布するのではなく最初に配布してほしい。

話を聞いていても内容（何をどうして何を得たいのか）がわからない事が多々あった。
授業進行の手順を書いたプリント等発行してほしい。

- ・プリントをひたすらやるだけで、内容があまり理解できない。出席カードで復習みたいにするのは良いと思うが、それも順序だてて説明したりできないため、まる暗記やまるうつしになってしまう。もう少し工夫が必要だと思う。
- ・レジュメの形式を統一して下さい。
- ・もう少し、黒板の字をきれいに書いてほしかった。
- ・去年の（授業評価）アンケートを参考に、今年は字をきちんと書いてくれたと感じました。

<教員の教育姿勢>

- ・学生が遅れてくるのも悪いと思いますが、先生が講義に遅れてくるのも良くないと思います。
- ・先生のやる気のある日とない日の講義内容の差がはげしすぎて、ついて行けない時がありました。
- ・先生方が理想としている知識に比べて説明不足、情報提供の不足により、学生が十分な知識を得ていないと呆れて暴言を吐くのは間違っている。
- ・毎回の授業評価が反映されているように思えない。改善があまり見られない。

③ 各教員の現状認識と次年度に向けた対応 アンケートを受けて

以下は、各教員の現状認識と改善に向けた対応策の回答である。

- ・2006年度、2007年度と比較して、若干評価が下がっているのが気になる場所である。これは、1年生のごく一部に「学力の質の低下」が顕れていると予測する。
- ・『教科書を使用せず、内容的に難しい』授業があります。思うように伝わっていない点を反省し、次年度からは「教科書を使用する」、「毎回質問用紙を配布し、受講生の意見を聞き、フィードバックを行う」
- ・新聞記事を多く利用することで身近な問題として認識してもらえるようにするという方法は一定の効果があったと考えるが、無関心層の関心を掘り起こすことはやはり難しい。今後は、受講者の人数の問題もあるが、○○○問題を学習するためのワークショップの実践などにヒントを求めて、できる範囲内で参加型の授業も組み込んでいきたい。
- ・新聞以外にも、受講者が興味をもてる資料を探索して有効に活用したい、
- ・できれば社会学と家族社会学の順を逆に。ただし2年前期に社会学系が3科目集中するのは受講者の負担になるように思われる。
- ・すべての学生に理解できるような授業展開を工夫していきたい

- ・理解度の確認の必要性を再認識した。その方法については、個々の学生とのコミュニケーションのあり方を工夫しながら来年度は改善したい。
- ・テレビ番組やDVDを利用した講義が学生のモチベーションを上げたように思われた。実際には、どの講義でどのタイミングでDVDを利用するか、その内容もワンパターンにならないよう、ドキュメンタリー、ドラマなど、その利用時間の長短も工夫した。
- ・今後の改善点としては、学生自身が‘考える’作業ができるよう、講義の工夫をしたい
- ・学生の学力格差・・・理解度が低い学生に復習しやすいツールの作成が必要・・・毎回の理解目標を提示し書かせていたが、授業前に配布してほしい旨の意見があり、次年度より実施予定である。
- ・実習中の教員コメントが理解の一助になったというコメントもあることから、考えを促すような内容の実習にしたい
- ・専門用語の解説が少ない、聞き取りにくいなどの指摘・・・小テストを行うことで、専門用語の理解ができるものと思われるが、講義の中でもゆっくりと学生の確認を取りながら用語の説明を行うよう心掛けたい
- ・教具・教材以外の工夫について授業の内容を深めることができるようなキーワードを提示し、改善していく。
- ・昨年度はスライドが早い他の意見を得たが、自身でスライドが早くても重要な点を復唱するなどを心がけた結果だと思う。
- ・今後は、「視聴覚教材の開発と使用」、「講義のねらいの説明の徹底」に注意を払う必要性を感じた。
- ・完成年度以降は、学生の学ぶ姿勢や希望を全面的に受け止め、福祉士養成との整合性を重んじながら「理解しやすい講義のねらい」を提出したいと思う。
- ・また、今回は、「講義のスピードを上げてほしい」「配布資料が難しい」との学生からの意見もあり、今後は、学生の持つ知識量を十分に把握したうえで講義の進行や資料の配布に配慮したいと思っている。
- ・本講義に対する学生の授業評価を真摯に受け止めたとき、「あなたは、シラバスにある『講義のねらい』を達成することができた」に対する意見の表明に対処しなければならないと思う。「ねらいが高く設定されているのか」「ねらい到達を困難にする講義上の課題があるのか」を解明する努力を行いたいと思う。
- ・板書計画を練る。

IV. 資 料

(資料1) 2008年度授業評価アンケート 名寄市立大学FD委員会

このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはないこと、また、目的以外に調査結果を使用しないことを約束します。ぜひとも率直な回答をお願いします。

I. 以下の枠内に科目名、担当教員名を記入し、質問についてあてはまる番号を1つ選び、直接マークシートに記入して下さい。

番号は、4「そう思う」、3「ややそう思う」、2「ややそう思わない」、1「そう思わない」ということを意味します。こちらには○をつけしないで下さい。

科 目 名 担当教員名

- | | | | | |
|--------------------------------------|---|---|---|---|
| (1) 授業の目標、内容、評価方法について明快な説明があった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (2) 授業内容は理解できるものであった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (3) 教員の話し方は聞き取りやすかった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (4) 黒板、スライド、教科書、プリント等は、内容の理解に有効であった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (5) 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (6) 授業の進行速度は適切であった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (7) 内容の理解を確認するための作業(例：課題、小テスト等)があった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (8) 教具・教材の工夫以外に、授業進行上での工夫がみられた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (9) あなたは、シラバスにある「講義のねらい」を達成することができた。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (10) この授業は、今後の授業を理解する上で役に立つ内容であった。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

II. 授業の内容や方法の改善に向けて、あなたの感想や意見を自由に書いてください。

(もし差し支えがなければ氏名を付記してください。)

ウラへ続く

担当教員に対して、個別に意見や感想があれば、以下の欄に自由に記述して下さい。
担当教員名

担当教員名

担当教員名

担当教員名

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました

(資料2) 授業評価アンケート実施手順

名寄市立大学・短期大学部 FD 委員会

1. アンケートの実施

アンケート用紙は科目別に用意しており、受講者数分を同封しております。実施につきましては、担当科目の14回目・15回目・期末試験週のいずれかの日に、担当教員の判断で行って下さい。

2. アンケート用紙の配布

アンケート用紙は、担当科目の時間内において配布して下さい。余った用紙は封筒に入れて下さい。

3. アンケートの記入

本アンケートは、授業者の授業改善並びに大学全体の授業改善を目的として実施いたします。実施に際して、この目的に沿って学生への協力を求めるものであること、それをもって大学として授業改善に真摯に努力するものであることを十分に伝えていただきたい。

なお、これまでどおり、アンケートへの記述によって不利益を被ることはけっしてないこと、および結果を調査目的以外には利用しないことをご説明下さい。

記入は担当科目の時間内をお願いします。アンケート用紙は鉛筆（シャープペンシル可、ボールペン不可）でしっかりと記入させるようにして下さい。特にマークシートの箇所は細い・薄い・枠からはみ出ると、読み取りに失敗しますので注意を促して下さい。

アンケートの回答（問1から10までの選択肢）を、直接マークシートに記入して下さい。この作業を「問10」まで行わせて下さい。また、自由記述欄への記入を勧めて下さい。

自由記述欄は、いうまでもありませんが、あくまでも授業改善に関わる限りで、自由に書いてほしいこと、欄の大きさの制約もありますが、可能な限り簡潔に正確に伝わる内容で書かれることを求めています。原則無記名とします。（さしつかえない場合の）記名を希望するのは、記述内容を授業者がより明確に理解できること、また必要な場合には確認することも可能という理由からです。

4. アンケートの回収

アンケート終了後、すみやかに用紙を回収して下さい。担当教員によるチェックや改ざんの防止のため、受講学生の1人を回収者に指名して下さい。そして、その者がアンケートを回収し、余った用紙とマークシートもまとめて封筒に入れ、授業終了後に事務局教務係へ提出するように指示して下さい。これで実施完了です。

○アンケートの実施に関して不明な点がございましたら、FD委員会委員までご連絡ください。皆様のご協力をお願いいたします。

発 行

平成 22 年 10 月

名寄市立大学・短期大学部 F D 委員会

〒096-8641 北海道名寄市西 4 条北 8 丁目 1

TEL (01654) 2-4194 (代) FAX (01654) 3-3354

平成 20 年度 F D 委員会

| | | |
|-----|------|-----------|
| 委員長 | 塚本智宏 | (教務部長) |
| 委員 | 八幡剛浩 | (保健福祉学部長) |
| 委員 | 家村昭矩 | (短期大学部部長) |
| 委員 | 坂田三允 | (看護学科長) |
| 委員 | 高田哲 | (社会福祉学科長) |
| 委員 | 三澤吉己 | (事務局長) |